

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	人工股関節全置換術後における自覚的脚長差消失時期の検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
【対象】 倫理審査委員会承認後から2026年3月31日の間に新潟大学医歯学総合病院および新潟県立新発田病院で施行された人工股関節置換術症を受けた患者様（約100例） 【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2027年3月31日まで	
③概要	人工股関節置換術において脚長差はときに術後成績を不良にし、患者満足度低減の原因となりうることが報告されています。自覚的な脚長差は経験上徐々に感じなくなりますが、その消失時期については詳しいことが分かっていません。本研究の目的は自覚的脚長差の消失する時期について調査することです。
④申請番号	2023-0362
⑤研究の目的・意義	人工股関節置換術において脚長差はときに術後成績を不良にし、患者満足度低減の原因となりうることが報告されています。自覚的脚長差は経験上自覚的脚長差は徐々に感じなくなるものの、その消失時期については詳しいことが分かっていません。自覚的脚長差が残っている症例に対しては、早期から歩高の使用など対症療法を検討することが日常生活動作の向上につながると考えられるため、その消失時期を把握することは重要であると考えられます。 本研究の目的は『自覚的脚長差』の消失する時期について調査し、術後 ADL 向上につなげるよう検討することです。
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2027年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	調査に用いる X 線画像は通常の診療に使用するものであり、本研究のために、追加する検査はなく、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。データは研究を担当する研究者および分担研究者以外の者に漏洩しないように、作業方法、作業場所、データ保管方法等を厳重に管理致します。個人情報に関しては特定の個人を識別することができない情報へ匿名化を行います。研究成果の公表に際しては、個人が特定されることのないように配慮致します。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢（30－90歳）、性別、左右、術前後の自覚的脚長差、X線上での脚長差、上前腸骨棘から同側足関節内果までの距離、股関

	節機能スコア
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科学分野
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 lmainorio2001@med.niigata-u.ac.jp